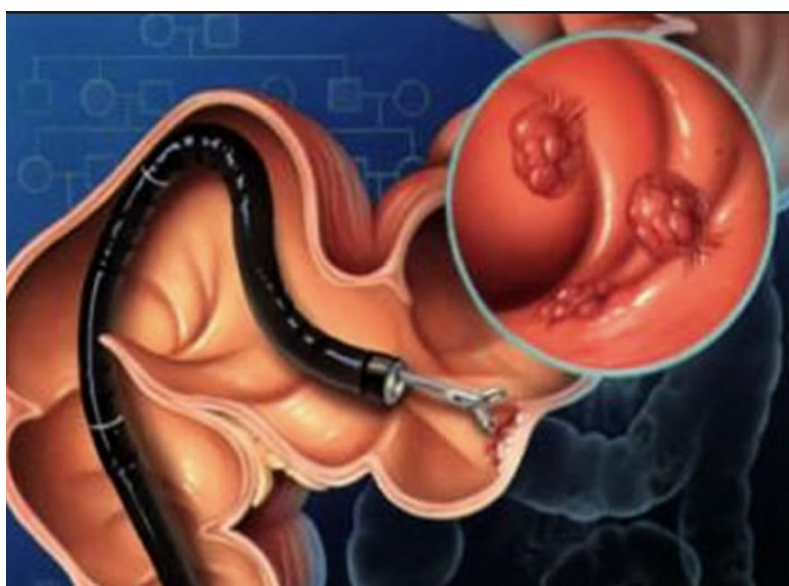
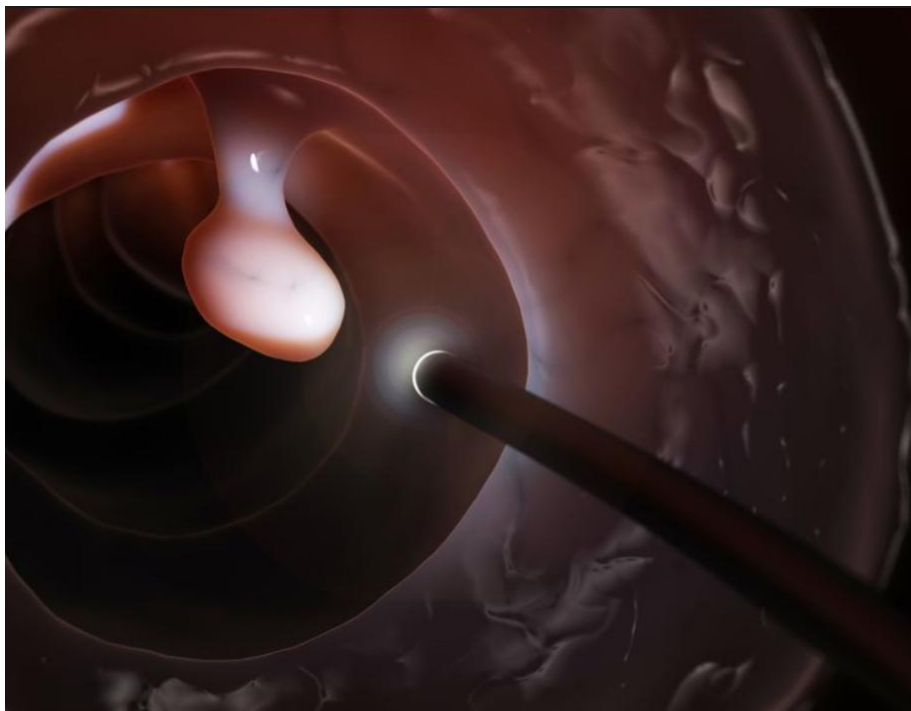


# 便潜血検査＋大腸内視鏡検査後の の長期死亡率低下について

便潜血検査＋大腸内視鏡検査後の大腸癌死亡率の低下は 30 年後も持続し、大腸内視鏡によるポリープ切除の有益性を支持する研究が New England Journal of Medicine 誌に掲載されています。



50~80 歳の 46,551 人が参加したミネソタ結腸癌対策試験において、30 年の追跡調査期間中、**便潜血検査+大腸内視鏡検査**を行った群の**大腸癌死亡率**は、検査を行わなかった群に比べ、明らかに低下しました。



年 1 回の便潜血検査＋大腸内視鏡検査を行った群の相対リスクは、検査を行わなかった群に比べ 0.68、2 年に 1 回の相対リスクは 0.78 でありました。

また、2 年に 1 回の便潜血検査＋大腸内視鏡検査を行った群における大腸癌死亡率の低下は、男性のほうが女性より大きい結果となりました。

